

IV 平成 28 年度の主要な事業動向

1 来館者サービスの状況

(1) 入館者、貸出、レファレンスサービス等

平成 28 年度の総入館者数は 583,865 人(前年度比 96.9%)、1 日平均の入場者数は 2,070 人である。平成 28 年度末現在の有効登録者数は 45,090 人(平成 28 年度新規登録者 13,611 人)で、郵便による利用カード発行(平成 26 年 4 月開始)には、505 名(前年度 447 名)の申込みがあった。

資料の個人貸出点数(図書、A V 資料)は、496,301 冊・点(前年度比 93.1%)、1 日平均は 1,759.9 冊・点(前年度比 94.1%)であり、貸出中資料への予約は 28,806 件(前年度比 94.9%)で、このうち利用者自身によるオンライン予約は 20,535 件(前年度比 96%)であった。

レファレンス件数は 33,257 件(前年度比 93.3%)であった。

(2) 児童に対するサービス

平成 28 年度末現在、開架に図書 33,542 冊、閉架も含めると 83,088 冊、雑誌は全て開架で 38 タイトルを所蔵している。児童図書の貸出冊数は、前年度より 3.7%減少し、84,296 冊(全貸出数 416,234 冊)であった。

発行物では、新着図書を紹介する『新しく入った本』(月刊)とおすすめ本を紹介する『じどうとしょしつだより えほん』(季刊)、『児童図書室だより ものがたり・ちしきの本』(季刊)を発行した。

テーマ展示では、開館 25 周年を記念して「話題になった子どもの本 1991-2016」のほか、「いろんなところへ出かけてみよう」「食べもの・料理の本」など 2 か月ごとにテーマを変えて関連図書の展示と貸出を行った。

「おはなし会」については、午前は幼児向け、午後は小学生向けとして、年間 22 日 44 回行った(参加者 536 名)。簡単な実験や工作などを行う「おたのしみ会」(参加者 89 名)を夏休み中の 8 月及び冬休み中の 12 月に行い、小学校高学年以上を対象にした「大人も楽しめるおはなし会」(参加者 8 名)を 1 月に行った。

また、子どもの読書活動に関わる方々への情報提供サービスとして、図書館のホームページに、読み聞かせやブックトークなどの参考図書を紹介するページを開設した。

(3) 障害者へのサービス

平成 28 年度に視覚障害者用に作成した録音図書 D A I S Y (デイジー)の数は 56 タイトル、そのうち既蔵テープからデータ変換したものは 32 タイトルで、平成 28 年度末現在の D A I S Y の所蔵総タイトル数は 857 タイトルとなった。

視覚障害者への対面朗読は、利用者数が延べ 146 人(前年度比 56.6%)、対応した朗読者数が延べ 111 人(同 65.3%)、朗読時間数が 231 時間 25 分(同 56.2%)であった。

視覚障害者資料の貸出数は、自館資料は 842 タイトル(同 106.6%)で、他施設の資料を提供した数はダウンロード 367 タイトルを含め 3,964 タイトル(同 92.0%)であった。自館資料の他施設への貸出は 680 タイトル(同 89.6%)であった。

当館が加入している視覚障害者等への情報提供ネットワークシステム「サピエ」は、点字・録音図書の施設間相互貸借のための書誌データベースのほか、一種の電子図書館の機能もあることから、利用者個人の「サピエ」への直接利用もサポートしており、平成 28 年度は新たに 13 人が登録し、総数は 36 人となった。

心身障害者への郵送貸出の数は、634 点(同 85.4%)であった。

(4) 各コーナーの状況

県立図書館としての役割や県行政を推進する観点から次のテーマについて集約したコーナーを設置している。

ア 地域資料

愛知県の人・事物について書かれた資料、県内行政刊行物、その他愛知県に関する資料を収集している。平成 28 年度末現在、開架に図書 37,590 冊、受入継続雑誌 438 タイトル、閉架も含めると図書 77,021 冊(前年度比 1,672 冊増)、雑誌 1,334 タイトル(前年度比 9 タイトル増)を所蔵している。平成 28 年度には、「愛知のものづくり」に関連のある江戸期から近代までの資料について、54 点を受入れた。

イ ビジネス情報

企業経営、起業、資格取得、就職関係の資料を集約したビジネス情報コーナーを

平成 17 年 3 月に開設し、平成 28 年度末現在図書約 4,100 冊と受入継続雑誌 37 タイトルを開架している。

関連事業として平成 28 年度は企画展示「職業・資格の本」「社史を創る」「起業を応援します!」を開催した。そのうち「起業を応援します!」は日本政策金融公庫との共催で行い、展示会場では県産業労働部並びに農林水産部作成の起業関係のチラシも配付した。併せて、日本政策金融公庫主催の次世代女性起業家応援セミナーを開催した(参加者 50 名)。

また、『ノリタケ 100 年史』を始め「優秀会社史賞(一般財団法人日本経営史研究所主催)受賞社史」を集めたコーナーを開設した。

ウ 多文化サービス

多文化共生社会への意識づくりと在住外国人への日本語教育等を支援するため、平成 18 年 3 月に中国語、韓国・朝鮮語、ポルトガル語で書かれた図書や日本語学習用の図書を備えた多文化サービスコーナーを開設した。平成 28 年度末現在約 5,100 冊を開架しており、文学や日本語学習用の図書を中心として安定した利用が続いている。

エ ティーンズ

読書離れの進む中・高生に読書に親しんでもらうため、「ティーンズコーナー」を開設(平成 17 年度末)し、平成 28 年度末現在約 7,200 冊を開架しており、そのうち約 20%が常に貸出中と、多くの利用が続いている。

また、利用者参加型企画「てこぼん」(ティーンズコーナー ポイント Get 大作戦!)を継続して開催し、利用者が書いた POP(お気に入りの本を文章やイラストなどを使って紹介したもの)を活用して他の利用者に PR することにより、さらなる利用促進を図っている。また、7 月から 9 月にかけて投票により POP の優秀作を選ぶ「第 5 回てこぼん大賞」を実施した。

(5) 館内インターネット用端末の状況

平成 28 年度の館内インターネット用端末の利用は延べ 19,340 人(前年度比 86.7%)であった。

2 図書館サポーター

平成 28 年度の「おはなし会サポーター」の登録は、14 名で、毎月第 1 日曜日と第 3 土曜日に絵本の読みきかせや紙芝居、ストーリーテリングなどの実演を行った。また、大人を対象にした「大人のためのお話会」を 2 月に開催し、朗読とストーリーテリングの実演を行った。

破損・汚損した図書の補修を行う「資料補修サポーター」には、2 名の登録があり、補修作業を行った。

3 図書館内の催し物

図書館を知ってもらう活動として、企画展示・講演会等を開催した。主な講演会は以下のとおりである。その他については P.9「実施事業一覧」参照。

(1) トークイベント「アートを読む」

日 時 平成 28 年 9 月 3 日(土) 16:30-18:00

場 所 愛知県図書館大会議室

参加者 118 名

内 容 港千尋氏と島敦彦氏の「アート」を巡る対談と関連資料の紹介

出演者 あいちトリエンナーレ 2016 芸術監督 港 千尋氏

愛知県美術館館長 島 敦彦氏

(2) フォーラム「図書館のチカラ」

日 時 平成 29 年 3 月 25 日(土) 14:00-16:30

場 所 愛知県図書館大会議室

参加者 135 名

内 容 国内外の図書館の活動事例紹介とパネルディスカッション

パネリスト 中日新聞社取締役名古屋本社編集局長 臼田信行氏

愛知県立大学教授 中島 茂氏

NPO 法人くらしとバイオプラザ 21 常務理事 佐々義子氏

愛知県芸術劇場プロデューサー
東海高等学校図書部員
東海高等学校図書部員

山本麦子氏
青木勝之氏
松下 晋氏

4 研修の受入

小中高生の見学や体験学習を始め、司書課程の学生の実習など、32件 241人を受け入れた。

5 市町村立図書館等を介したサービスの状況

(1) 協力貸出・相互貸借

ア 協力貸出

平成28年度の県内市町村及び東海・北陸ブロック(岐阜県、三重県、富山県、石川県、福井県)内の各図書館への協力貸出数は、図書16,921冊(前年度比85.4%)、CDなどの録音資料2,000点(同102.2%)の合計18,921冊・点(同87%)、うち県内図書館17,508冊・点(同86.3%)、県外1,413冊・点(同95.7%)であった。

イ 相互貸借

平成28年度の愛知県図書館を経由した同ブロック内の図書館同士が相互貸借した図書は、45,916冊(同100%)、うち県内図書館同士が37,599冊(同99.1%)、県外図書館への貸出が5,641冊(同104.9%)であった。この相互貸借システムにより同ブロック内の図書館349館の約5,291万冊の蔵書の相互利用が可能になっている。

また、静岡県と、平成28年9月から12月まで、県立図書館間の資料搬送定期便の試行運用を行った。

(2) 遠隔地返却制度

愛知県図書館で借りた資料を地元の図書館で返却できる遠隔地返却制度を、平成24年度から実施している。対象自治体は、東三河地区(豊橋市、豊川市、蒲郡市、新城市、田原市、設楽町、東栄町、豊根村)、西三河地区(岡崎市、碧南市、西尾市、高浜市、幸田町)、知多地区(半田市、常滑市、南知多町、美浜町、武豊町)の18市町村で、平成28年度の利用は2,567冊・点(前年度比89.4%)であった。

また、遠隔地返却の電算システム改修を行い、地元の図書館で返却処理の後、当該図書が県図書館へ返送中であることを電算システムに反映させることで地元図書館での返却と電算システム上の実際の返却処理のタイムラグが解消された。

(3) 市町村立図書館への支援

ア あいちラストワン・プロジェクト

県内で1図書館のみが所蔵する希少資料(ラストワン)を将来にわたって確実に保存し、利用できるよう県内市町村立図書館と協同して取り組んでいるプロジェクトで、平成25年1月から試行し、平成26年10月から実施した。

平成29年3月末時点で図書館を持つ48市町村のうち46市町村の47館が参加している。平成28年度は市町村立図書館において保存が困難とされた632冊の希少資料が愛知県図書館に移管され、累計1,914冊となった。

イ 研修講師派遣

平成28年度は、県内外で実施された図書館や関係団体が主催する研修会等へ、講師として職員19名(前年度18名)を派遣した。また、情報交換のために延べ17名(同31名)の職員が市町村立図書館を訪問した。

6 県内図書館職員向け研修

図書館職員を対象とした研修を平成28年度は愛知県公立図書館長協議会、愛知県図書館協会と共催で実施した。

【地域資料セミナー②】デジタル化研修会

テーマ「活用から考える地域資料のデジタル化」

日時 平成29年2月8日(水) 13:30-16:30

場所 愛知県図書館大会議室

参加者 46名

内容 地域資料デジタル化アンケートを踏まえ、「活用」をキーワードに実施

講 演 「図書館とデジタルアーカイブ」
 岐阜女子大学准教授 石原真理氏
 事例報告 「津島市立図書館における地域資料のデジタル化事業」
 津島市立図書館副館長 園田俊介氏
 パネルディスカッション
 パネリスト 岐阜女子大学准教授 石原真理氏
 津島市立図書館副館長 園田俊介氏
 田原市図書館館長 豊田高広氏
 ワークショップ
 ファシリテーター 岐阜女子大学准教授 石原真理氏
 (【地域資料セミナー①】については P.7 参照)

7 資料の収集

(1) 図 書

平成 28 年度は、16,334 冊の図書を受け入れた。(購入:和書 12,041 冊、洋書 61 冊、計 12,102 冊。寄贈:和書 4,072 冊、洋書 20 冊、計 4,092 冊。)県産業労働部(労働協会)からの管理換えが 26 冊、貸出文庫用図書からの受入が 114 冊であった。購入による受入は、平成 18 年度から平成 21 年度までの 21,000 冊程度から、その後は資料購入費の減少に伴って購入冊数が減少しており、平成 28 年度は 12,102 冊であった。市町村立図書館及び利用者ニーズに応えるため、専門性の高い資料、仕事や生活、生涯学習に役立つ資料、地域の資料、本県のものづくり関係の歴史資料や産業の発展に役立つ資料については、他よりも優先し重点的に収集を行った。
 図書蔵書冊数 1,129,199 冊(1,113,325 冊(27 年度末)+16,334 冊(受入)-460 冊(除籍))

(2) 新聞雑誌

時事情報の入手や調査に役立つ主要な新聞、研究・教養に役立つ各分野の主要な雑誌を収集しており、平成 28 年度の継続受入資料は、新聞 98 紙、雑誌 2,134 タイトルであった。購入雑誌については、効率的に資料を受入れるため、データベース、学術リポジトリ等の電子媒体で代替可能なものを中心に見直しを行い、冊子体発行の雑誌の継続受入を維持した。また、県内の市町村立図書館等から保存期間が過ぎた雑誌『月刊ニューポリシー』等計 9 タイトルについての寄贈を受け、バックナンバーの欠号分を補充した。

(3) A V 資料

教養や文化面で資料価値の高い資料を中心に収集しており、平成 28 年度は映像資料では DVD 154 点、録音資料では CD 214 点を受け入れた。購入・寄贈の別では、購入 223 点、寄贈は文化財の記録映像など 145 点である。DVD、CD とともに、前年度に引き続き、劣化の進むビデオカセットやカセットテープ、旧蔵レーザーディスクの代替資料の購入を進めた。平成 28 年度末現在での所蔵総数は映像資料 5,803 点、録音資料 17,638 点である。

8 インターネットを利用したサービスの状況

(1) アクセス状況

ホームページのトップページへのアクセス数は 1,183,894 回(前年度比 89.6%)と減少したが、愛知県図書館の蔵書検索ページのアクセス数は 1,950,207 回(同 140.6%)と増加した。このことはトップページを経ずに直接蔵書検索を行う利用者が増えていることを示している。

横断検索「愛蔵くん」には、県図書館、県内市町村立図書館(49)、公民館図書室(2)及び専門図書館(3)が参加しており、横断検索のアクセス数は 578,131 回(PC からのアクセスのみ。スマートフォン等携帯端末を除く)(同 95.6%)と減少した。携帯サイトの総ページビューは 61,167 ページ(同 109.1%)と増加した。

(2) 地域資料のデジタル化の推進

当館が所蔵する貴重な地域資料の効率的な利用のためデジタル化を平成 15 年から順次推進している。平成 28 年度末現在、「絵図の世界」(758 点)、「絵はがきコレクション」(108 セット)、「貴重和本デジタルライブラリー」(163 タイトル)の 3 コレクションをホームページに掲載し、高精細画像の閲覧が可能である。

「貴重和本デジタルライブラリー」は、引き続き書誌データの整備を進めており、平成 28 年度は 20 タイトル分の整備が完了し、平成 29 年度以降も順次タイトルの増加を図っていく。

また、平成 28 年度新たに受入れた「愛知のものづくり」に関連のある江戸期から近代までの資料について、『安永川記事聞書』始め 5 点をデジタル化した。

(3) ナクソス・ミュージック・ライブラリー

音楽配信サービス「ナクソス・ミュージック・ライブラリー」(平成 26 年 4 月から開始。クラシックを中心として同時 20 アクセス)の平成 28 年度の利用件数は、総計 23,156 件(前年度比 99.4%)であった。

(4) 国立国会図書館の図書館向けデジタル化資料送信サービス

ア 国立国会図書館デジタルコレクション

国立国会図書館が所蔵し既に著作権が切れてインターネット公開されていた資料約 53 万点、著作権が切れていなくても絶版等の理由で入手困難な資料で昭和 43 年までに受入れた図書約 55 万点、平成 12 年までの雑誌約 80 万点等について、当館専用端末で閲覧、複写ができる。(平成 27 年 5 月サービス開始)

イ 歴史的音源(れきおん)

「歴史的音源」は 1900～1950 年頃の SP 盤等のデジタル化音源で、インターネット公開している著作権(著作隣接権)の保護期間が満了した音源 2,060 点と図書館送信資料約 47,000 点を当館 8 台の端末から聴取ができる。(平成 23 年 5 月サービス開始)

9 開館 25 周年記念事業

平成 28 年は開館 25 周年に当たり、それを記念して以下の事業を行った。

(1) 企画展示 愛知県図書館の 25 年

日 時 平成 28 年 3 月 15 日(火)～6 月 8 日(水)

場 所 愛知県図書館 1 階ロビー

内 容 開館当時の写真や 25 年間を振り返る資料を展示した。

(2) 県指定文化財『尾張国絵図』『三河国絵図』特別公開

日 時 平成 28 年 4 月 20 日(水) 第 1 回 13:30-14:30、第 2 回 15:30-16:30

場 所 愛知県図書館大会議室

内 容 普段はデジタルライブラリー「絵図の世界」でしか見られない大型絵図の実物を特別公開した。参加者計 55 名。

(3) 国絵図の上を歩く

日 時 平成 28 年 4 月 21 日(木)～24 日(日)

場 所 愛知県図書館 1 階ロビー

内 容 『尾張国絵図』『三河国絵図』(実物大レプリカ)を 1 階ロビーに展示し、その上を歩いてご覧いただくイベントを開催した。参加者 82 名。

(4) クイズスタンプラリー

日 時 平成 28 年 7 月 15 日(金)～9 月 30 日(金)

場 所 愛知県図書館館内

内 容 館内各所でクイズに答えながら図書館キャラクターのスタンプを集めるクイズスタンプラリーを実施。子ども向けは図書館キャラクターシール、大人向けは 25 周年記念しおりをプレゼントした。参加者 557 名。

(5) 愛知県図書館 入館者 2,000 万人達成記念特製絵はがきをプレゼント

日 時 平成 28 年 11 月 23 日(水・祝)

場 所 愛知県図書館 1 階

内 容 開館 25 周年と入館者 2,000 万人到達を記念し、11 月 23 日に利用登録、資料貸出をされた方に、記念特製絵はがきを配布した。537 セット。

10 県内図書館の動向

平成 29 年 4 月 1 日現在の県内の図書館設置市町村は 48(38 市 9 町 1 村)、未設置市町村は 6(豊山町、大治町、南知多町、設楽町、東栄町、豊根村)で図書館設置率は 48/54(88.9%)市町村である。

県内で図書館業務に指定管理者制度を導入している県内公共図書館は全 99 館中 23 館(前年度 16 館)で、その内訳は図書館業務全般への導入が 19 館、施設管理のみ導入が愛知県図書館始め 4 館である。

11 県内図書館団体等の動向

(1) 愛知県公立図書館長協議会

愛知県公立図書館長協議会は、昭和 43(1968)年、県内公立図書館相互の連絡と図書館活動の推進を図ることを目的に設立され、現在 69 館(図書館設置の全市町村及び名古屋市分館)が加入、図書館業務に関する研修会、調査等の事業を実施している。また同協議会にヤングアダルトサービス連絡会と図書館ネットワーク研究会が設置されている。

ア ヤングアダルトサービス連絡会

ヤングアダルトサービスに関する情報を広く収集し周知するため研修会を開催した。講師に鈴木佳苗氏、鈴木静氏を迎え、「問題解決型学習と図書館」と題し、講演、グループ討議等を行った。また、ヤングアダルト向けのブックガイド『ティーンのための Aichi Librarians' Choice A・L・C あるく』第 4 号を作成し、愛知県図書館のホームページに公開している。

イ 図書館ネットワーク研究会

県内図書館が連携して実施する広報・PR 事業として「アートを発見！」と「ふるさとの伝統文化」を共通テーマとしたイベント「@ (アット)ライブラリー」を行った。県図書館のホームページに特設ページを設け、参加館のイベント情報を掲載、「アートを発見！」には 28 館、「ふるさとの伝統文化」には 12 館が参加した。

また、ホームページ内に県内公共図書館の施設・設備等を紹介するページ「愛知県内公立図書館一覧」を掲載している。

ウ 研修会

第 1 回(6/2) (講演)「人を育てる ～滋賀の図書館づくりで大切にしてきたもの」

講師：國松完二氏(参加者：71 人)

第 2 回(6/15) (講演)「子どもはみんな、本が好き！ ～子どもに本を手渡すとは？」

講師：福岡淳子氏(参加者：100 人)(愛知図書館協会との共催)

第 3 回(1/19) 地域資料セミナー①「見つける！伝える！地域の魅力 ～地域資料の可能性」(参加者：57 人)(愛知図書館協会との共催)

第 4 回(2/8) 地域資料セミナー②「活用から考える地域資料のデジタル化」(参加者：46 人)(愛知県図書館、愛知図書館協会との共催)

(2) 愛知図書館協会

愛知図書館協会は、昭和 25(1950)年に図書館事業の進歩発展を図り、もって教育と文化の振興に寄与することを目的に設立された。主な事業は県内図書館職員向けの研修会の企画・実施である。会員には、施設会員(64 機関)、個人会員(56 人)及び賛助会員(10 団体)の 3 種がある。

同協会が実施する研修は、実務への応用を主眼に、講義と演習を組み合わせた連続受講形式のものを主とし、平成 28 年度に実施した研修は次のとおりである。

ア 児童サービス研修(6/15、7/8、9/8、10/13、12/9)

児童サービスに必要な知識と技術に関する講義と演習を連続 4 回の受講形式(うち 1 回は愛知県公立図書館長協議会との共催による拡大講座 6/15)とステップアップ研修(12/9)で構成し実施した。(参加者：連続講座 20 人、拡大講座 80 人、ステップアップ研修 10 人)

イ レファレンスサービス研修(9/29、10/27、11/8)

レファレンスのインタビュー技法、参考資料の評価等の講義と演習による連続 3 回の受講形式の研修を実施した。(参加者：24 人)

ウ 地域資料セミナー

11(1)ウの第 3 回、第 4 回を参照

エ 資料保存研修(1/26、1/27)

資料の保存について実習と講義を組み合わせた研修を実施(参加者：40 人)

オ 統計研修(3/2、3/3)

愛知淑徳大学の協力を得て、図書館での統計業務に関して講義と実習を組み合わせた 2 日間の研修を実施(参加者：20 人)

12 大学図書館、学校図書館との連携

愛知県図書館と名古屋大学の図書館間の資料搬送便及び県図書館と名古屋市立大学の図書館間の名古屋市図書館メールカーを使った資料搬送による公立図書館と大学図書館間の相互貸借は、公立図書館から大学図書館への貸出が 800 冊(前年度比 116.3%)、大学図書館から公立図書館への貸出が 261 冊(同 107.4%)であった。

また、愛知県図書館は東海地区図書館協議会(名古屋大学附属図書館に事務局を置く。愛知県、岐阜県、三重県、静岡県)の公立図書館 63 館、大学図書館 24 館が参加)に加入し、同協議会の「資料相互利用協定」に参加している。当館から同協議会参加の大学図書館との間で、338 冊(同 82.2%)の貸出(名古屋大学、名古屋市立大学、愛知県立大学、岐阜大学、三重大学)と 82 冊(同 141.4%)の借受があった(名古屋大学、名古屋市立大学、岐阜大学、三重大学、静岡大学)。

高等学校を中心に、学校図書館への支援サービスを行っており、このうち高等学校への協力貸出数は 6 校 483 冊(同 45.2%)であった。

V 平成 28 年度来館者アンケート調査結果

愛知県図書館では、来館者の利用行動や評価、要望を知るため、平成 17 年度からアンケートを行っており、平成 28 年度は、11 月 13 日(日)と 15 日(火)に 1,300 枚の用紙を配布し、825 人の方から回答を得た。

詳細については、ホームページ「県図書館の発行物」

(<https://websv.aichi-pref-library.jp/publish.html>)に掲載している。

1 来館者について

年代では、20 歳代以下の回答者の割合は、初めてアンケートを実施した平成 17 年度には 36.7%を占めていたが、その後少

しずつ減少し、平成 27 年度は 20%を下回ったが、平成 28 年度は 20.2%(前年度比 3.7%増)となった。職業別では、「お勤めの方」が 46.6%(同 3.1%増)で最も多い。学生の比率は平成 17 年度には 29.1%であったが、平成 24 年度以降 20%を下回っており、平成 28 年度は 15.2%(同 3.3%増)であった。

実施日	11 月 13 日(日)	11 月 15 日(火)	計
配付数	600	700	1,300
回収数	353	472	825
回収率	58.8%	67.4%	63.5%
入館者数	2,227 人	2,022 人	4,249 人

2 来館頻度について

「月数回」が 39.2%で最も多く、次いで「週 1 回以上」が 29.0%で「月 1 回」以上が 83.5%を占めている。県図書館の利用頻度別に地元図書館の利用頻度を見ると、週 1 回以上県図書館を利用している人は、その 4 割が月 1 回以上地元の図書館を利用しており、県図書館と地元の図書館を使い分けている実態がうかがえる。

3 来館目的について(複数回答可)

来館者全体でみると、「娯楽・教養」が平成 22 年度の 29.5%から増加傾向にあり、平成 27 年度は 37.3%と過去最高だったが、平成 28 年度はそれを大きく上回る 53.8%であり、年齢が高くなるほど、その年代の目的全体に占める割合が高くなっている。

年代別でみた来館目的の特徴的な回答は、10～15 歳、16～20 歳は「勉強」が最も高く、順に 78.6%、91.0%となっている。21～59 歳では、「仕事」、「調査・研究」を目的とする人の割合が高くなっており、また、この世代は図書館を選択する上で「専門的・学術的資料の充実」を重視している。

4 サービスの重要度と満足度 *4 段階評価(中心値は 2.5)

例年、最も重要度が高い「本や雑誌などの量、種類」は 3.45(前年度 3.48)、満足度は 3.13(昨年度 3.10)で重要度は微減であるが、満足度は微増した。この他に満足度においてポイントが上がったのは「施設の快適さ」3.34(同 3.28)、「館内表示」3.15(同 3.11)、「催し物」3.07(同 3.03)だった。「全体的な満足度」は 3.27(同 3.23)で前年度を上回った。